



CISJ NEWS

A Publication of the Clinical Implant Society of Japan

January 2016

ご挨拶



一般社団法人
日本インプラント臨床研究会
会 長
田 中 讓 治

会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。新執行部として1年半程たちまして、会務運営にご理解と暖かいご支援ご協力により、至らぬこともあるかと思いますが無事に会務が遂行されていることに心から感謝とお礼を申し上げます。

インプラントに対する一部のネガティブな報道によりインプラントを取り巻く環境が低迷しておりましたが、超高齢社会を迎え健康長寿の鍵を握ると言っても過言でない歯の大事さ、そして咀嚼できることの重要性が浸透し、インプラントの素晴らしさが再認識されてきております。昨年、東京で「世界会議2015」が「健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健」というテーマで盛況に開催されましたが、世界最速で高齢化が進むわが国において、要介護状態へ陥らない予防策として口の衰え「オーラル・フレイル(虚弱)」を見逃さないようにする新たな国民運動が展開され、高齢者における「メタボ健診」に代わる健診として広く普及していくことが期待されております。

このように歯科界そしてインプラント界のターニングポイントともいえる現在、片手間にインプラントをおこなっていた医院は自然淘汰され、真剣に取り組んでいるインプラントロジストのみが国民から求められてきております。このような中、当会としては、インプラント界を牽引する日本を代表する研究会の一つとして、真摯にインプラントに取り組みインプラントの素晴らしさを国民に浸透させていくことが責務と考えております。

昨年の名誉会長の深井眞樹先生の突然の悲報には言葉も出ませんでした。当会では先生との思い出の場所で偲ぶ会をおこないご冥福をお祈りいたしました。深井先生は生前「インプラント馬鹿になれ」とよく言われておりました。そして、私が会長職にあった深井先生から次期CISJ専務を拝命頂いた際に、当会はインプラント界のトップに君臨し日本のインプラントを先導していく使命があることを告げられ、そして歴史ある当会を一枚岩の研究会として盛り上げていくことを誓いました。先生のご遺志を受け継ぎ、一層の発展のために邁進していく所存です。

今年の干支は丙申(ひのえさる)です。丙申は「形が明らかになってくる」年だそうで、また、多事多端で時代の変革期ともなる時期といわれております。前回の丙申は60年前で、景気が戦前の経済水準を超えるまでに回復し、神武景気とまでいわれた時期だそうです。当研究会としても、さらなる飛躍へのターニングポイントとして会を盛り上げるよう誠心誠意努力していきたく思います。どうぞ、本年もご支援ご協力を心よりお願いするとともに、会員皆様の発展とご活躍を祈念してご挨拶とさせていただきます。